

◆ 議長記者会見概要

日時：令和6年6月18日（火）14：07～14：35

場所：県議会棟理事者控室

出席者：岩田国夫議長、池田慎久副議長



池田慎久副議長

岩田国夫議長

<案件>

1年間の振り返り

（岩田議長）

お忙しい中お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

私は令和5年の5月臨時議会において引き続き議長に選出いただき、様々な仕事をさせていただきました。

あっという間でございましたが、今任期における私なりの思いをお伝えしたいと思います。

県議会は皆様ご存じのように、二元代表制の一翼を担う存在ですが、よりよい県政のために、これまで知事部局と議論を重ねながら、その機能を十分に発揮できるよう、議長として開かれた公正な議会としていくことに心がけて参りました。

奈良県は長い間、保守系の知事が続いてきましたが、それが変わり、日本維新の会から知事が誕生しました。

議会構成では、私どもの自由民主党・無所属の会が、過半数を占めているものの、実際は野党という立場になりました。私と池田副議長を議長、副議長に選んでいただきましたが、さあ、大変な仕事になるぞ、という思いがありました。

その後、知事室で直接面談させていただいたのは、今年の9月でした。6月定例会も終わり、初めての面談で、私は知事に、公約も大事ですが、荒井県政以上の県政を推進するために知事になられたのだから、知事選の対抗馬であった方達に投票した人々の気持ちも相容れて考えていただきたいと、お願いいたしました。

令和6年2月定例会では、知事のお考えに基づく予算が提出されました。それまでは、前知事の事業の見直しをされていました。

奈良県では、きちんとした防災体制や組織、防災拠点ができていないのが事実であります。令和6年度予算では、五條市の土地云々はともかくとして、132万人の県民の生命・財産を守ることが大事であることから、防災体制や組織をどうするのか、防災拠点はどのようなものがあるのかを早く構築していただきたいということを申し上げました。

元旦に能登半島地震がありましたが、国道249号が被災し、復旧、復興が大変困難になっています。奈良県でも、紀伊半島の中で、国道168号と国道169号がありますが、今も、下北山村の国道169号では復旧作業が続いており、国道168号ではまだ対向できない箇所が何カ所もあります。そういう意味において、まず、学識経験者からなる諮問機関を作って、その答申を一日も早く受け、議会と協議していこうと知事に申し上げてきました。

知事も、ここ1年を経て、最近では、私から見ると、いろいろな面で変わってこられた、そのような気がいたします。

また、今日までは、前向きに進んできたなという思いでいます。

さて、国民スポーツ大会は、令和13年に開催が予定されており、施設等を整備する時期が来ています。奈良県では、前回の国民スポーツ大会を開いて以降、荒井前知事、その前の柿本元知事、議員も含め、体育施設に全然手をかけてこなかったのが、全国での整備率が最下位です。この国民スポーツ大会を契機に整備を行い、規格の整ったところでのびのび競い合いをさせてあげたいと思っています。そのために力を入れてやってほしいと知事に伝えたので、今、いろいろ前向きに検討されているように思います。

次に、防災に関しては、全国47都道府県の中で、奈良県だけ、陸上自衛隊駐屯地がありません。

全国各地で、頻りに災害が起きていることを考えますと、自衛隊の駐屯地のある県民の方々は、災害が起きたら困るけれども、万が一起きたとしても、自衛隊がいてくれたら少し安心かと思えます。ところが、奈良県民も同じだけ税金を納めているのに、なぜ同じ安心を与えてもらえないのかという思いがあり、もう一度、要望したいということで、6月14日に、私が代表して、県、県議会、五條市の3つの要望書を防衛大臣へ持参いたしました。それも、私の印象に残った出来事の一つです。

(池田副議長)

昨年5月の就任以来、これまで岩田議長のご指導のもと、議長をサポートする立場として、1年余り仕事をさせていただきました。

私なりに1年を振り返ります。昨年の副議長の就任挨拶の中でも申し上げたのですが、同年の統一地方選挙の改選で、約4割の方が県議会議員として新しく当選され、若い議員も増えたということで、県議会の中で、自由闊達な議論が党派を超えてできることを願い、またそういう環境をぜひ作っていきたいということをお願いしました。振り返りますと、この1年、かなり活発な議論ができたのではないかと感じております。

特に、県議会において、先ほど岩田議長も触れられましたが、防災力の強化のための取組については、本会議並びに委員会において、活発な議論が展開されました。

また、政策検討会議のセミナーでは、防災をテーマに開催するなど、各議員がしっかりと勉強し、議論し、防災のあり方を考えていく機会を設けることができたのではないかと感じております。

防災について、今はまだ議論の途中ですが、非常に活発に議論がされてきたことは、記者の皆様もご承知のとおりだと思いますし、今後の取組を、さらに進めていくきっかけになったと思っております。

とりわけ、岩田議長のお話と重なりますけれども、元旦に発災した能登半島地震を目の当たりにし、今、奈良県で、あのような地震が起こると、大変なことになってしまいます。令和6年度当初予算案の修正を踏まえて、検討部会で専門家の皆様によって議論がなされ、また議会でも勉強している最中ではありますが、これらの機会は、防災体制や必要な機能、それから広域防災拠点の場所をどこにするのかといったことをしっかりと考えていくきっかけになったのではないかと感じております。

それとあわせて、様々な事業の見直しがありましたけれども、今一度、県と市町村、もちろん住民も含めて、しっかりとお互いの意思疎通や連携、そして協力といった形づくりをすることが大変重要だと感じております。これは、奈良県の発展に向けて、必須の条件だと改めて感じたところです。

知事は執行機関であり、意思決定をしていくのは議会であるということ、この1年で、それぞれの議員が再認識できたのではないかと感じております。

そして、昨年11月に、東京都で行われました、都道府県議会議長会主催の第23回研究交流大会で、奈良県議会でも実施している高校生議会について紹介する機会をいただき、私が発表させていただきました。

「主権者教育について」がこの研究交流大会における、シンポジウムのテーマでした。奈良県の高校生議会を、全国の議員の皆様にご紹介でき、また、全国の議員と議論や意見交換ができたのは、大変良かったと思います。また、全国の皆様から、奈良県議会が、とても素晴らしいことやっていると褒めの言葉を数多くいただきましたことは、本当にうれしかったです。

その時にも申し上げたのですが、18歳、19歳の投票率は、全国平均に比べると奈良県は高い状況になっています。今年も8月に高校生議会が行われますが、募集をしたところ、応募校数が非常に多いことから、奈良県全体として、教育の現場において、子供たちが、我が町について、あるいは政治や選挙について、しっかりと学んでいるのだなということを改めて感じているところでございます。

るる申し上げましたけれども、そのような大切な時期に、副議長の要職を無事に務めることができまして、大変ありがたく思っておりますし、在任中、記者の皆様にも大変お世話になりましたことを、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

<質 疑>

Q：2月定例会で、戦後初めての再議や予算審査特別委員会での知事提出議案の否決、条例の修正案など、今までではあまり見ることがなかった動きがあったと思うのですが、そこを振り返っての感想を、議長と副議長にお伺いいたします。

(岩田議長)

条例の修正案に対しては再議がかけられました。

この条例案は、皆様もご存じのように、前の条例よりも、深く地元の承認を得るということでありました。あとの防災関係、消防学校の移転などに対して、知事は再議をかけませんでした。

そうした中で、先ほど申し上げましたように、少しずつではありますが、状況がはじめと大分変わってきたなという印象が非常に強いです。

だから、今、過去を私どもも反省しています。与党という中でずっときていたので、今日までに、奈良県の防災組織、防災拠点が構築されていなかったことを私どもも反省をしています。これは、もっと前からやっていかなければならなかったことです。本当に、県民の皆様におわびしなければならないのですが、知事が先述の件を再議にあげなかったということは何よりも印象に残っています。

これを見ても、議会というものは、やはり全員でやっていかなければならないなと強く感じました。

(池田副議長)

今の奈良県政には、課題が山積していると考えておりまして、とりわけ、最重要課題は、防災と国民スポーツ大会の関係です。これについては、先の2月定例会で修正案が、自由民主党・無所属の会から提出されて、審査・議論をした結果、可決成立いたしました。

皆様ご承知のように、予算修正の中身は、何もすべてうち消そうということではなく、先ほども申し上げましたが、市町村、住民はもちろんですが、県議会と県がお互いしっ

かり議論しながら、また、信頼関係を持ちながら、そして、連携協力しながら、事業を進めていくことが何より大切だと考えています。そういう意味では、きちんとステップを踏んで、基本構想や基本計画、事業実施という形で、それぞれのタイミングにおいて、議会でしっかりと議論し、よりよい県政の方向性を決めていく。これは、予算案修正の肝であると思いますので、そういう仕組みが1つ作れたことは良かったと思っております。

Q：岩田議長にお伺いします。自衛隊駐屯地についての要望書を提出されたということですが、これは、奈良県議会として提出されたのでしょうか。

(岩田議長)

奈良県、五條市、そして奈良県議会の3つの要望書を、私が代表して提出いたしました。

Q：要望書の内容を教えてくださいませんか。

(岩田議長)

平成23年の紀伊半島大水害では、山津波と言われるぐらいの災害が起こり、大変でしたけれども、当時、陸上自衛隊の方々が久保駐屯地から応援に来ていただいて、地元の方も、本当に感謝をしておられました。

能登半島の状況を見ておりましたら、主要な幹線は国道249号だけです。その入口が崩れてしまって、みんな中へは入れないと言う状態です。奈良県でも、国道168号と国道169号は一日も早く供用してもらいたい。陸上自衛隊の駐屯地は、奈良県だけにはないわけですから、能登半島の映像を見ていて、なぜ同じ税金を納めながら奈良県だけが安心を与えてもらえないのか、と思います。

防衛は国防ですから、いろいろ考えがあるとは思いますが、異常気象などによる災害時において、国民は自衛隊を頼りにしているのではないのでしょうか。それは県も五條市も同じで、県民皆様の気持ちを文書にてお伝えしてまいりました。

木原防衛大臣は熊本県出身ですが、熊本県の防災センターへ、私も2回勉強に行かせていただきました。熊本県は、全国でも防災体制はトップクラスです。

ご存じのように、熊本県は、市街地の中に駐屯地があります。そのような思いを、木原防衛大臣にも受け止めていただきました。

(終了)